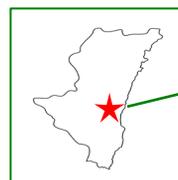


背景・課題

宮崎市の農業は、冬季に温暖で日照時間の長い気候条件を活かし、野菜や果樹、花きの施設園芸を基幹品目とし、早期水稲や畜産を組み合わせた農業経営を軸に発展してきた。特に、施設園芸で栽培する冬春きゅうりは、作付面積及び収穫量が全国1位（令和4年度）と、全国でも有数の産地となっている。

一方で、昨今の燃油等の高騰により、生産者の所得確保が難しくなっていることから、燃油のみに依存せず、かつ収量・品質確保が可能な施設園芸営農モデル（以下営農モデルという。）を確立する必要がある。



宮崎市

構成員

宮崎市、宮崎県、宮崎大学、施設園芸農家、JAみやざき宮崎中央地区本部、宮崎県中部農業改良普及センター、宮崎県総合農業試験場

品目

きゅうり

成果目標

化石燃料（A重油等）使用量を100%低減する。

主な取組内容

- 省エネ技術を先進地に実施している産地への視察、営農モデル確立に向けた検討会を開催
- きゅうり栽培における高保温性カーテン、電熱線による培地加温技術体系の検証
- きゅうり栽培における営農モデル確立に向けたマニュアル作成、生育評価、環境影響評価を実施



営農モデル確立に向けた検討会の様子



高保温性カーテン



超高保温性カーテン

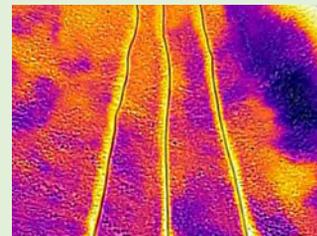
被覆資材の比較



電熱線の設置



電熱線設置の様子



電熱線発熱の様子
サーモグラフィ

普及に向けた取組

きゅうり栽培における高保温性カーテン、電熱線による培地加温技術体系の検証を行い、生育評価、環境影響評価を実施し、営農モデル確立に向けたマニュアルを作成する。また、作成したマニュアルを活用しつつ、導入を希望している生産者等に対する助言、指導等を行う。

問い合わせ先

宮崎市SDGs 対応型施設園芸推進協議会事務局（宮崎市農政企画課）
TEL: : 0985-21-1785

高鍋・木城有機農業推進協議会（宮崎県高鍋町、木城町）

R5補正
R6当初

75

背景・課題

当地域における有機農業に関する課題として、①当地域の気候や土壌等の環境に合った有機農業の栽培技術について確立途中であることなどから、現時点で正しい情報や知識が浸透していない場合もあること、②生産コストや収量の減、栽培技術、防除等の手間、販売先等に関して農業者が不安を抱えていること等が挙げられる。

成果目標

有機農業の取組面積（有機JAS認証面積）

現状（R4）15ha →（R9）18ha

有機農業で生産された農産物等の販売数量

現状（R4）87t →（R9）189t

有機農業に取り組む農業者数（有機JAS認証取得者数）

現状（R4）2人 →（R9）5人

主な取組内容

①生産

- ・有機農業指導員や先進的農家を招へいした新規参入者向け研修会を開催
- ・土づくり、栽培方法等に関する技術講習会を開催

②加工・流通

- ・有機農産物を取り扱う県内業者と生産者による意見交換会を実施
- ・地域認証農産物等の販売を目的とした直売所での特設コーナー設置に対する調整
- ・農産物直売ECに関するセミナー開催

③消費

- ・学校給食及び教育・保育施設への有機米（特別栽培米含）、有機野菜（じゃがいも・人参・さつまいも）の提供
- ・有機農産物啓発イベント（オーガニックフェスタ等）を開催

オーガニックフェスタ
「オーガニック&こだわりマルシェ」



オーガニック給食を楽しむ子供たち



普及に向けた取組

高鍋町、木城町では有機農業サポートセンターを設置し、生産者に対する伴走型の支援を行うとともに、地域内外の有機農産物や加工食品を取り扱う販売会やマルシェ等のイベントを開催することで、流通・消費の面から地域としての取組をアピールし、幅広い世代に対する啓発活動を行う。

問い合わせ先

高鍋・木城有機農業推進協議会

TEL：0983-32-4739（木城町役場有機農業推進室）

南さつま市（鹿児島県南さつま市）

R5 補正
R6 当初

76

背景・課題

南さつま市では有機農業をはじめとした自然循環型農業の促進を積極的に進めている。自然農法体験学校「ありのまま分校」を平成27年度から開校し、有機農業への理解を深めたり、生産・流通・加工・消費と様々な取組を実施することで有機農業の周知を図っている。

成果目標

有機農業の取組面積（いも・野菜類）
 現状（R2） 6.8ha → （R9） 9.4ha
 有機農業で生産された農産物等の学校給食等への供給量
 現状（R2） 70kg → （R9） 2,500kg
 有機農業に取り組む農業者数
 現状（R2） 15人 → （R9） 16人

主な取組内容

市内唯一の農業学校である県立加世田常潤高等学校のほ場の一部を有機農家の研修ほ場として管理し、担い手育成を行っている。また、有機農家が中心となり同高校等での実習を行っている。

①生産

- ・たまねぎを大きく育てて安定した出荷を目指すプロジェクトを実施。

②加工・流通

- ・加工野菜を学校給食に納入するための検討を行った。
- ・R5年度にんじんの葉を使った「ニンジン葉っぱ塩」やジェノベーゼソースの開発を行った。
- ・R6年度地元飲食事業所の協力を得てメニューの開発を行っている。

③消費

- ・学校給食への納入。（令和4年度～）
- ・学校給食に納品できる野菜を「ありのままお野菜」と表記し、ブランディングを行っている。
- ・有機農産物を入手しやすいよう、イベント等での販売会を行う。また、PR活動を行っている。



南さつま市

構 成 員

南さつま市、県南薩地域振興局、自然農法・オーガニック野菜委員会、県立加世田常潤高等学校、希望が丘学園鳳凰高等学校、(株)MOA商事、学校給食センター等

品 目

野菜（にんじん、いも等）



ありのままお野菜



県内初となる学校と市の有機に関する協定締結



学校給食へ納品



ありのまま分校での作業風景

普及に向けた取組

市内イベント等での販売会で市民への有機農業の周知及び自然農法体験学校「ありのまま分校」の開催により、有機農業をはじめとした自然循環型農業の促進を積極的に進めている。

問い合わせ先

南さつま市役所産業おこし部農村振興課生産流通係
 TEL：0993-76-1603

南種子町有機農業推進協議会（鹿児島県南種子町）

R5 補正
R6 当初

77

背景・課題

青果用さつまいもの『種子島安納いも』は全国的にも広く認知され、農林水産省の地理的表示産品として登録されている。

南種子町は、2022年6月にゼロカーボンシティを、翌年3月にはオーガニックビレッジを宣言し、持続可能な食料システムの構築に資する取組として有機農業を推進している。『種子島安納いも』についても排水対策等による病害対策や有機質資材を活用した、環境にやさしい栽培技術の確立及び省力化が課題となっている。



南種子町

構成員

南種子町、かごしま有機生産組合、熊本支庁、生産者

品目

かんしょ



成果目標と主な取組内容

- ① 明きよ・暗きよやレーザーレベラー等による排水対策
- ② 土壌分析に基づく有機質資材の活用
- ③ 簡易キュアリング等の活用
- ④ 直進アシスト等のスマート技術を活用

①～③の取組により、病害発生の抑制、化学肥料の施用量低減といった環境にやさしい栽培技術の有用性を検証し、技術を確立するとともに、④による省力化の実現を目標とする。



額縁明きよ、弾丸暗きよ、レーザーレベラーによるほ場の緩傾斜均平作業を実施し、対照ほ場との比較により排水対策の有効性を確認

額縁明きよ作業の様子



直進アシスト機能付きトラクタを用いた畝立て・自動植付け機を活用した省力化



土壌分析及び土壌センサーによる土壌化学性の分析、坪掘りによる収量・品質調査を実施することで有機質資材の有効性を確認

露地センサー設置



キュアリング処理による貯蔵中の芋の腐敗発生状況の比較を行う

キュアリング施設等視察

普及に向けた取組

環境にやさしい、さつまいも栽培技術を確認し協議会で栽培マニュアル・産地戦略を策定するほか、明きよ・暗きよやレーザーレベラーによる排水対策、有機質資材、スマート農業機器の活用等取組の作業状況を町民に公開することで理解を深め、地域への普及を図る。

問い合わせ先

南種子町有機農業推進協議会（南種子町総合農政課内）
TEL：0997-26-1111（代表）

沖縄市食用菊産地育成協議会（沖縄県沖縄市）

R5 補正
R6 当初

78

背景・課題

沖縄本島の中央に位置する沖縄市は、県内で唯一の食用ぎくの産地である。温暖な気候を生かし、国内主産地（東北地域）の閑散期にあたる1月～3月にかけて県外へ出荷し、端境期の需要を支えている。

近年、主産地農家の高齢化による面積減少や栽培期間の短縮等により、沖縄県産の出荷期間拡大が求められていることから、出荷期間拡大を図るとともに、環境にやさしい栽培体系の確立に取り組むこととした。

成果目標

- 赤色LEDの活用による化学農薬使用量の低減及び病虫害防除回数と消費電力の削減
- 太陽熱消毒による土壌環境改善、土壌分析に基づく化学肥料使用量の低減
- グリーンな栽培体系に取り組む面積
令和5年度：0ha → 令和14年度：0.6ha

主な取組内容

- JA、県普及センターと連携し、定期的に病虫害の発生調査を行い、赤色LED導入による病虫害忌避効果について検証している。また、化学農薬使用量及び病虫害防除回数を慣行栽培と比較し、技術の効果を検証している。
- 太陽熱消毒及び土壌分析に基づく施肥設計を行い、化学肥料施肥量及び出荷量を慣行栽培と比較し、技術の効果を検証している。



沖縄市

構成員

沖縄市食用菊産地育成協議会
 沖縄市農林水産課
 沖縄県中部農業改良普及センター
 沖縄県農業協同組合

品目

食用ぎく（施設栽培）



食用ぎく植付状況確認及び赤色LED設置状況 R6.11



おきなわ花と食のフェスティバル（野菜品評会）出品物 R6.1

普及に向けた取組

赤色LEDを導入したほ場及び慣行栽培ほ場にて、化学農薬の使用量・散布回数や病虫害発生状況、消費電力等のデータ収集を行いつつ、先進地視察により導入技術に係る情報収集を行う。当事業にて収集した情報を基に栽培マニュアル及び産地戦略を作成する。作成したマニュアル・産地戦略については、生産者部会等を通じて、周知・普及を図る。

問い合わせ先

沖縄県農林水産部園芸振興課
 TEL：098-866-2266

問い合わせ先

農林水産省大臣官房環境バイオマス政策課 みどりの食料システム戦略グループ

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

TEL：（直通）03-6744-1865

HP：<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/index.html>



北海道農政事務所	生産支援課	TEL（直通）：011-330-8807
東北農政局	環境・技術課	TEL（直通）：022-221-6193
関東農政局	環境・技術課	TEL（直通）：048-740-0422
北陸農政局	環境・技術課	TEL（直通）：076-232-4131
東海農政局	環境・技術課	TEL（直通）：052-746-1313
近畿農政局	環境・技術課	TEL（直通）：075-414-9722
中国四国農政局	環境・技術課	TEL（直通）：086-230-4249
九州農政局	環境・技術課	TEL（直通）：096-300-6022
沖縄総合事務局	生産振興課	TEL（直通）：098-866-1653

みどりの 食料システム戦略

食料・農林水産業の生産力向上と
持続性の両立をイノベーションで実現

MAFF
農林水産省